**11月29日　未来電子テクノロジー(株)　代表取締役・CEO 福本　真士　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

今回の授業のテーマは「価値をシフトさせる技法」でした。福本さん自身の経験を例にして話していたので、理解しやすかったです。ものが、それを使用する人の使用目的・機能・形状で認識され、使用されることで初めて価値を持つことになるように、人の価値も、自分以外の他人にかけられた言葉で決められ、その価値を生み出すには、守破離のように理想とする人のまねをしていき、やることの選択も好き嫌いで決めるのではなく、そのまねする人と同じように選択することが大切だと分かりました。また、深く打ち込める遊びと仕事を結びつけることで自分らしい価値が生まれると分かりました。（教育人間・人間文化課程・1年）

“既に価値があるものと自分がやりたいことを紐づけると価値が生まれる”という言葉は今までわかってはいたけど、文字に起こされ言葉として認識するととても納得でき核心をついていると思いました。価値についてもそれほど深く考えたことはなかったけれど、今回「価値=他人からの言葉」という定義がされたので、分かりやすかったです。今までふわっと捉えていたことが今回の講義で明確化され、やるべきことは価値創造へとつながることなのだとはっきりわかりました。自らの行動・意思・ポテンシャルというものはそれだけでは意味がなく、一つ一つの歯車として上手くかみ合ったうえで、他人からの期待値を超えて評価に値する価値を生み出すためにあるのだと感じました。社会の厳しさや現実、これから人材の在り方を教えて頂いたことはとても貴重な経験になりました。（経営 会計・情報1年）

大学に合格してから「自分がやりたいことをやりたい」と思い多くのことに挑戦してきた。本当に自分のキャパシティを超える量を抱え込んでいたので、自分が持っているスキルポイント100を5ずつ振り分けていたような日々だった。しかし、最近自分の限界を超えて、自分がするべきことを見つめなおしていたので、今回の講義は、まさにそのことをまとめて理論化してくれたもので大変刺激的だった。周りの大人の声を無視して「自分のやりたいこと」ばかり突き進めて、まさにエゴの塊だったなと思った。「守破離」を何もしていなかったのだなと思った。まずはどんな人を目指し、コピーするのか決める。ひたすら学ぶ、そして自分なりのアレンジ方法を考えるようにする。今まではすべてに関して先に答えや攻略法を求めていた。泥臭く1つのことをやり抜こうと思いました。(経営　国際経営　1年)

・以前廊下に張られていた「あなたは鉛筆一本を10万円で売れますか？」というポスターを思い出した。名馬になるより駄馬にならないことを重視するという考え方が新鮮だった。とても「アメフト的な考え方」だと思った。

・自分のやりたいことをやって、たとえそれが求められていないことであっても、自分のために、また価値にならないことはないのではないかな、と思った。

福本さんが以前は役者や芸人、プログラマーなどいろいろな道を経由していて、また学びたいことがあると大学に通ったり弟子入りしたりしていたと聞いてその行動力にとても驚かされました。その上で気付いたという（すでに価値があるものと自分がやりたいことを紐づけると価値が生まれる）の言葉にはとても納得させられました。将来のことについて考えるとなると、つい初めに自分のやりたいことは何かを見つけ出そうとしてしまうけれど、それが他人からも求められているのかどうかという点がとても重要なのだなと思いました。自分の価値というのは他人に目的意識をもって用いられ、目的が実現されて初めて価値として成立するという考え方に基づいて私たちがするべきことは、自分のエゴを捨て去り、現実と真剣に向かい合うことではないかと思いました。（経営学部　経営システム科学科　1年）

プログラミング技術を持っているのに、その技術を使わず、パソコンを作るという発想はなかなか浮かばないと思います。そういった奇抜な発想が、起業をする上では重要なのだと学びました。「思い付きで始めたものでも、ひとつひとつ結果を残していくことが大切である」ということも改めて学びました。「すでに価値があるものと、自分がやりたいことを紐づけると価値が生まれる」この言葉は初めて聞き、とても驚きました。今まで、自分がやりたいことを第一に考えて行動していたけれど、実際は逆で、すでに価値のあるものから自分のやりたい事を探し出すことが、一番良いことだということを今日の講演で学ぶことができました。「誰もやっていない域まで取り組み、相手の期待値を終えること」はとても大変だと思いました。誰もやっていない域まで取り組める力や体力をつけていくことが、社会で評価されることへの最重要事項であると分かりました。（経営学部・経営学科・1年）

今回の講義では、「価値」に着目したお話しを聞くことができ、よかったです。特に「表層」や「深層」のお話しが印象に残りました。遊びを深めて、仕事とつなげることで価値が生まれるというのは、とても斬新な発想だと思いました。今まで私は、遊びは遊び、仕事は仕事という、公私は分けるべきであり、違うものだという考えを持っていましたが、仕事と遊びをつなげることも大事であると知り、興味深かったです。また、インターン生にルービックキューブなどの課題を出したと聞いたときは一瞬訳が分かりませんでしたが、「３つの役割」というお話を聞き、そのようにつなげることができるのはすごいと思いました。自分だったらあれらにどのような価値をつけて売るか考えましたが、なかなか思いつかず価値をつけることの難しさを実感しました。（経営学部国際経営学科１年）

「抽象的な教育」が現実のインターンにかけていることだという話が印象的だった。横国は井上先生のおかげで意味のあるインターンをさせてくれる企業をたくさん紹介してもらえる。しかし、他大学生にインターンの話をすると、だいたい「インターンなんて行っても何も成長できないらしいよー。つまんないからやめな」と言われる。そのギャップは何なのかな、とずっと思っていたので、今日その謎が少し解けた気がする。それにしても福本さんの「いろいろなことをやる」のいろいろが多岐にわたりすぎていて、うらやましかった。周りの目が気になったり、日本人特有の体裁を気にしたり、「いろいろ」をはばむものはたくさんあるけれど、自分の人生はいつまで続くかわからないし、確実に一度しかないので、負けずに行動していきたい。そして、その「いろいろ」を決めるために、価値を生み出すために、自分の「軸」をぶらさずにいたい。（経営学部経営システム科学科１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

インターンシップの新しい形のアプレンティスシップは様々な企業で体験できて、興味を持ちました。価値観のお話で、自分の価値は周りで決まり価値がもともとあるものに携わることで自分の価値を得られるという考えは納得しました。これから先、生きていく中でエゴを捨てて周りの評価を聞き入れられるようになりたいです。（経済・経済システム1年）

メタロープレとあったように、自分なりの価値を生み出せるように、関係がないようなものでも深めていけるようにしていきたいです。(経営学部　会計情報学科　1年)

・みんなが真似できないくらいの自分の好きな一人遊びを極めたいです。特異性、オリジナリティー、母数が少ない自分になりたい。

私は今大学で所属している部活を辞めようとしている。辞めようとして仲間に言ったところ部員にマネージャーとして残ってほしいと言われたが、部活を辞めてサークルに入るというほうがやりたいので振り切ろうとしていた。しかし今回の講演を聴いて少し考え直した。価値を生んでいるわけではない私がサークルを移る選択と、価値を生むマネージャーとして残るという選択のどちらをとるべきか、という観点も含めて考えたい。これはビジネスではないけれど、今回の講演でのお話は心にとどめておきたい。(経営学部・経営学科・1年)

**授業スタッフの感想**

　価値とは他人からの言葉であり、期待でもあるというお話も福本さんの講演の中で出てきたけれど、自分はそれ以上に、オリジナリティーのお話に衝撃を受けた。「理想の自分になりたいのなら、それに近い人を真似しろ。完全なオリジナルなんてものは存在せず、オリジナリティーとはこれまでのコピーのパターンである。」この考えは、自分が経営者から学ぶ…のレポートで書いた、自分には＜0から1＞を生み出す力はない。だからこそ様々な視点・知識を蓄え、＜既存の100から新しい1＞を生み出したい。」という自分の考えにピッタリと重なるものであり、自分の考えに自信を持てた。これからは価値とのつながりを考えながら、視点・知識とを増やしていきたいと思います。